

令和元年度 第3回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和元年10月11日（金） 午前9時30分～午後0時10分

場所：京丹波町中央公民館3階 大会議場

出席委員：16名

欠席委員：4名

1 開会あいさつ（会長）

会長：本日は、第3回京丹波町子ども・子育て審議会を開催したところ、多くの委員様にお集まりいただき感謝申し上げます。

ノーベル賞受賞候補の野田先生の講演会が母校の竹野小学校であった際、身近な小川のせせらぎや稲穂の輝き、蛍の光などの自然の環境が、自身の好奇心を駆り立て、物事への執着心が育っていったというお話しがあった。幼少期の環境が子育て・子育てに大きな影響を与えていると思った。本日もこの後、グループワークをしていただく予定であるが、子どもの育ちに関する計画の策定にかかわる私たちは、計画の内容がより豊かなものとなるよう、意見を出し合い、認識をより深めていける有意義な時間にしたいと考える。

2 協議事項

(1) (1) 第2期計画の基本的目標等の検討について

【事務局による基本目標等の変更についての説明】

会長：事務局から前回グループワークの振り返りとともに、第2期計画の基本理念及び基本目標についての提案があった。アドバイザーの原先生については、この後、他の公務のご都合もある関係から、まず先に、第2期計画策定にかかるアドバイスをいただく時間とさせていただく。

アドバイザー：基本理念や骨子を大きく変えないほうが良い。その上で、今日の会議で、“京丹波町らしさ”がもっと前面に出てくるような肉付けをしたほうが良いかと思う。

“京丹波町らしさ”とは、京丹波町の皆さんが地域で使っている場所、使っている言い回しやものなどが支援事業計画に出てきていいのではないかと考えている。京丹波町の皆さんのお使いになる言葉が、この計画に出てもいいと思う。工夫できるところは工夫できたらよいかと思う。併せて、子育て・子育てというよく似た言葉が出てくる。もちろん使い分けがあることも承知しているが、計画をみるのが町民の皆さんなので、子育て・子育てという言葉が混同されたり誤解を生まない言葉のほうが良いのではないかと感じる。例えば、基本目標1なら子どもたちが好奇心を持ちやすい環境を作るんだと書けばわかりやすい。その上で、子どもたちが好奇心を持ちやすい環境は何なのかを具体的に書けばいい。そのほうが京丹波町らしい。京丹波町の自然や風光明媚な良さは京丹波町の人でないとわからない。地域性を含めて、京丹波町バージョンに更新することが大切ではないか。そこをもっと強調して文言にしたほうが良い。安心・安全という言葉については、とても重要な言葉であるが、安心・安全を提供するのはこの計画でいうと、大人が用意するものになっている。安心・安全な環境は大人が用意すると子どもは自立的に成長しない。子どもたちは自分たちで遊び場

所を作る。場所も環境も、遊び道具も、ルールも子ども達が自分たちで考えて作ればよい。子どもの自立性をはぐくむ議論がされているにもかかわらず、大人目線で安心な場所、環境を作ってあげようという計画に読める。それは都市型の計画である。自然や環境を求めて、京丹波町において、子育てナンバーワンの町だよといえる計画にしよう。そういうメッセージが見える具体性のある計画がいいと思う。我々の想いをメッセージにして、みんなに見える形にする、それが視覚的にみえる（例えば、のぼりを立てる）と、皆と同じ方向に向かって頑張っている気がする。「京丹波町は子育てしやすいまちですよ」「一人にしませんよ」「ほっときませんよ」「みんなで笑えるまちですよ」というメッセージ性を発信することで、地域みんなが同じ方向で頑張っている気がする。高らかに宣言して、地域としても頑張れる、そういう地域を目指したいですね。

例えば、お隣に味噌や醤油を借りに行ける地域でなくなったのはいつからか、なぜなのか。味噌や醤油が貸し借りできるような関係性が、そういう地域が恐らく子育てするのに最適な地域だと思う。そういう概念を復権させるとすると、親がつながると、子どもたちも必ずつながる。地域がつながると、子どもたちもお互いにほっとけなくなりつながる。中学生が小学生にという縦の関係性は仕掛けなければ子どもたちは作れない。小さな人間関係のほうが、親も安全だと思っている。成長とともに自分自身の付き合いしていく人間関係は大きくなっていかなければいけないが、人間関係を広げるといことは今、みんなあまりやらなくなっている。子育てで一番重要なことは、その仕掛けづくりだと思う。子どもが何かやると、大人も地域も一体化する。みんなで何かをやる。運動会をしたり、祭りをしたり、地域が一体化するような仕掛けである。教育の分野では、構成的グループをつくるという。いつも同じ関係性しか持たない子どもたちに、違う関係性を仕掛ける。いつもとは違う人と関係性を持つ、出会ってみる、話をしてみる、人間関係を変えてみると、知らない人がいなくなる、お互いに顔と名前がわかってくる、名前呼び合えるようになる。お互いの関係性を持つことができるようにするための支援や関係づくりをこの計画のどこかに入れられないかと思う。

- 会 長：原先生からアドバイスをいただいたが、計画案だけでなく、京丹波町らしさなどについて、今の提案の中で感じられていること、考えられることを皆さんから少しご意見いただきたい。子ども食堂という言葉がでてきたとき、昔は隣が子ども食堂だったなと思った。田舎らしいことであるかもしれないが、近所の家で食べさせてもらったりできた関係であったと思う。
- 委 員：母子寡婦福祉会の活動をしているが、その中で、子どもの居場所づくりをして2～3年になる。一人ひとりに寄り添うと、親の介護に悩んでいる子、職場で悩んでいる子、学校に行けないと悩んでいる子もいる。京丹波町らしさは、本当に温かいところだと思っている。ひとり親に対しても支援をしてくださるし、そのことに感謝している。子どもを育てるという方を一人にしないで、母の悩みも聞いてあげられるようになりたいと思っている。近所で一人暮らしの方も多いが、孫を連れて話にいくと、とても喜んでもらえる。そういうことも子どもたちに知らせていくことも大切だなと思う。
- 委 員：他市町から嫁いできたが、皆さんに名前をいうと知っていてくださることが多く、関係性がつながることが面白い。お互い知らない関係であっても、地域での両親や配偶者の関係性が自分にもプラスに作用して、ぐっと関係性が近くなることが多いにある。先生から言っていたように、計画書に京丹波町らしい言葉が入っていると、読み手側も興味を持って

釘付けになり、読んでくださると思う。

会 長：原先生のお話は、中学校で講演頂いた時も、子ども心をよくつかんでおられ、話が面白く、引き込まれた。子どもたちが知らないところでいろいろ都会化している部分もあり、思春期になると親の考え方とか価値観と乖離していることが随分多くあると思うが、そういう部分を共有していろんな人と話をしていくことが大切だなと思った。

委 員：子育てしやすい町だとのぼりを立てたり、視覚的に示しておくことは、大変良いことだと思うし、思いつかなかった。たくさんのおぼりが立っていると、土日に京丹波町に遊びに来られた方が「あ～、京丹波町って子育てしやすい町なんだ」というアピールができて移住の人も増えるのではないかとすごくイメージが広がった。でもそうする前に、地盤を固めておかなければならない。具体的ところで、核家族化が進んでいる中で、近所づきあいを昔のようにしていける関係づくりを考えていくのも課題ではないかと思った。

委 員：私の体験が少しでもお役に立てられればと公募委員になった。子どもは正確に大人の世界を見ていると思う。だんだんと子どもの状況がこれではいけないと思うことがあれば、勇気をもってそういう関係機関に言ってもらいたい。最近、子どもの不登校に関して、学校に相談に行ったとき、プライバシーの事ばかり言われたので、あまり近所のことに関わらないようにしようと思った。深入りができない状況である。でも、昔は、もっとおせっかいが焼けた。これからは、プライバシーも大切だが、地域で育てる、助け合える関係性が大事だと思う。

会 長：おせっかいができるという関係性が大切であり、せつかく小さい町なので、全てのネットワークをつかって、地域での関係性が深まればと思う。まだたくさん意見があるかと思うが、グループワークの中で意見を膨らませていただきたい。全体の中で意見を聞いたところですが、第2期の計画書の構成（案）について、骨子を変えず、多少とも文章を明確にしていきたいという思いがあり、改正させていただいた今回の提案について、ご承認いただけるか。了承いただける方は挙手をお願いします。

【挙手多数により承認】

会 長：では、この提案は承認いただいたということで、（案）を消してください。次は、原先生からお題をいただいた“京丹波町らしさ”についてを、グループワークの柱にして討議をお願いしたい。

なお、原先生におかれましては、グループワークに入る前にご退席される。大変お忙しい中、ぎりぎりまでお世話になりありがとうございました。

【各班でグループワーク】

会 長：どの班も慎重審議いただきありがとうございました。前回の議論も踏まえて、かつ今日の原先生のアドバイスも生かしてのグループワークということで大変難しかったかと思う。各班での意見をできるだけ全体の中で情報共有する時間を設けるので、各班からの発表をお願いします。

【発表】

A 班：おせっかいのまち。何でも相談できる人間関係作りをしたい。おせっかいののぼりの話、町民をあげてそれを目指していこう。良識の範囲で。子育ての先輩から子育て中の親に声をかけてくれることもありがたい。子育てサロンを継続して進めていくためには、後継者もいる。おせっかい、続けていかなければならない。同年代の子どもがなかなかいないという状

況で、誰かが音頭を取ることも必要であり、行政のかかわりも必要。ケーブルテレビ等で子育てサロンの情報等についてももっと広報が必要である。民生児童委員など子育てに関する役割の中での支援だけではなく、子育てボランティアの育成も必要。新しく入ってきた人の地域行事へのかかわり、入り方がわからない方への情報提供や、祭りなど、若い世代への情報提供。若い世代へ寄り添うアプローチが必要ではないかという意見も出ていた。区ごとの子育てに特化したタウンミーティング、行政が主体となった懇談会が必要。子どもが自由に集まれる場所づくりということで、新庁舎にも、キッズスペース的な子どもが集える場があればいい。施設面では、トイレのことや授乳室など施設の見直しについてなど、公共施設での遊び場の安心・安全の点検はしっかりしていくべきなどの意見が出た。

B 班：京丹波町らしさを具体的に出すことの難しさ、表現をしていくことの難しさ、文字にする難しさということが出ていた。町民の意識の違いの難しさなども課題となっている。移住者を増やすという目標を立てることは大事であるが、来てもらってすぐの時点では壁があると感じる。移住した後の溶け込みやすさ、この町に住んでよかったというその後が大切である。様々なイベントに参加してもらって、そうすると話もしやすく近所との付き合いもしやすくなる。おすそ分け文化自体はすたれていないし、大事にしていきながら、干渉しすぎず、というさじ加減が大切という話が出ていた。子どもと他年代、高齢者施設などのかかわり方などお互いに楽しみながら勉強もできるのではという話もあった。地元のイベントにでると、地元に来てもらった人に温かさが感じられるのではないかと。働くお母さんのサポート、病後保育などのサポート、活用できるように行政で進めていただきたい。ファミリーサポート事業についても、周知できていない部分もあるかと思うので、広報の方法をもっと見やすい方法で考えてもらいたいなどの話が出ていた。

C 班：京丹波町らしさとはなにか、また、計画にどう反映していけばいいのか。子どもたちが自ら遊びを見つけていくにはどうしたらいいのかということについて話をした。京丹波町の良さは空気がすがすがしく感じられたり、自然の豊かさの中にあるのではないかという意見が多かった。自然公園、近所の自然豊かな所を計画に反映できたらいいなという話が出ていた。食べ物についても、身近なものが旬の時期にすぐ食べられるのも町の特徴。子どものいる家庭にとっては、近所づきあいがまだ残っていて、みんなで協力して周りの掃除をしたり、消防だったりみんなで協力して生活している地域でその環境で子育てができるというのが町の良さである。行政として、子どもが自分たちで遊べる遊び場所を、マップとして作れるのではないかと。子どもを遊ばせるということは親がちょっと休める場も整備していく必要があると思う。子育ての環境ということで、大人の近所付き合いということが出たが、のぼりを立てたらどうかという話で、地域コミュニティは過疎化で厳しくなっているが、ここを何とか維持をしてみんなで協力して、地域全体で支えられるような町にしていきたいと思う。

会 長：前回のグループ討議と原先生からの提起をもとに話をしてもらったが、おせっかいというのをキャッチフレーズにしようということではなく、今まで以上に子育てとか子どもの施設とか安心・安全に対して、より住民に迫ったというか、引かずにせめるまちづくりを全面的に出していかなければならないのではないかとということで受け止めている。全国的に住民も子どもも減っており、住み良い町に住みたいという住民移動が始まっている中で、決して華美なおもてなしはしない、水くさくないまちづくりをしていかなければならないということだと思う。遊び場など施設の安全、全体の雰囲気の中に、いかに肉付けをし今までよりより

食い込んだ子育て支援策を盛り込む計画にするかが大切かと思っている。多くの貴重な意見を短時間でいただき、ありがとうございました。

(2)その他

【事務局による須知幼稚園保護者説明会について情報提供】 田中主幹

【事務局による児童虐待防止に向けた取組みについて説明】 樹山補佐

3 次回会議予定

事務局：第4回の会議は、12月3日（火）午後1時30分から、ここ京丹波町中央公民館3階大会議室にて開催予定である。また、次第には記載していないが、先ほど原先生と協議させていただき第5回の会議について、2月6日（木）午前9時30分からで開催予定とする。出席についてご理解とご協力をお願いしたい。

4 閉会あいさつ

副会長：本日は原先生のお話、計画書の審議、グループ討議と報告と、盛りだくさんの内容で時間も目いっぱいだった。皆さん、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

先ほど事務局の説明でもあったように、10月1日から国の施策で幼稚園と保育所の無償化が始まった。本町でも保育所、幼稚園でも説明会が開催され進められている。国の施策とあわせて、京丹波町でも子育てを支えるまちづくりがさらに進んでいくように、皆さんの意見を参考に、子育て・子育てが充実することを願っている。

会長のあいさつの中にも、ノーベル賞の先生の話があったが、今日の朝のテレビを見ていると、平和賞受賞候補の方のインタビューの中に、「小さいときから自分のことだけを考えていたら駄目なんや、困っている人のことを考えるようになることが大切なんや」ということを育ちの中で教えてもらい、取組みをされた話を聞いて、今日、まさに地域の中で、自分のことだけでなく、こうして子育てにまい進しておられる保護者の方のことを私たちが考えて、子育てを充実してもらえるように事業を進めていけるように考えていくことが大切だなと感じた。大変忙しい中、こうして集まっていただいて嬉しく思っている。次回は12月という多忙な時期であるが、計画書の具体的な施策にかかる内容について審議いただくこととなる。次回も大変お世話になるがよろしくをお願いしたい。

閉会